建設用原材料 Vol. 12, No.1 pp.1－2, 2003

建設用原材料部門委員会設立１４周年を迎えて

社団法人　資源・素材学会
建設用原材料部門委員会
委員長　　桑原　隆司

「建設用原材料部門」委員会は、１９８８年４月に（社）資源・素材学会に設立された常設の部門委員会で、２００２年４月で１４周年を迎えた。

同年３月に行われた総会において、立松英信委員長と宇野泰章副委員長の辞任が認められ、代わって私　桑原隆司（北海学園大学教授）と井上敏克氏（宇部三菱セメント研究所企画管理部長）がそれぞれ委員長および副委員長に選出された。なお、論文報告集「建設用原材料」編集委員長は、引き続き山田優氏（大阪市立大学教授）に担当いただくことになった。

この機に、本委員会の１４年間の歩みをかけ足で振り返ると共に、激動の２１世紀における関係各位の一層のご支援、ご協力をお願いするものである。

本委員会は、岩崎孝初代建設用原材料部門委員会委員長（元早稲田大学教授）の提唱のもと、建設用原材料の評価・利用技術の確立などを目的として設立された。建設用原材料の生産者サイドと消費者サイドが連携・協力して活動を行うことを目的として、資源、土木、建築などの分野の研究者、技術者、関係機関代表が委員会を組織した。この時から、委員会事務局長を佐々木孝彦氏（鉄道総合技術研究所材料技術研究部室長）に担当いただいている。

委員会発足当時、アルカリ骨材反応など、使用材料に起因するコンクリートの早期劣化が社会問題になりつつあった。コンクリート用骨材としては、主に岩石資源が用いられてきたが、限りある資源を安全かつ効率的に利用するための骨材の評価・利用技術の確立が急務であった。そこで、以下の３つを研究課題に選んで、ワーキンググループを設置して、活動を開始した。

（１）　アルカリ骨材反応
（２）　石灰石骨材を用いたコンクリートの耐久性
（３）　廃棄物・副産物の骨材化

その後、（１）と（２）のテーマは所期の目的を達して終了し、資源リサイクルシステムの構築や地球環境問題とコンクリートなどに関する研究活動が行われるようになり、１９９９年には砕石微粉の有効利用を目的とした微粉有効利用研究会が発足し、コンクリートワーキンググループと路盤材ワーキンググループなどが研究活動を進めている。

また、これらの研究成果を発表し、情報交換を行う場として、論文報告集「建設用原材料」が、１９９１年３月に創刊され、本誌が通巻で１６巻になる。本誌の創刊とその後の発行は、山田優氏、佐々木孝彦氏など関係各位の尽力によるところが多い。

最後に、この激動の２１世紀において、限りある資源の有効利用や資源リサイクルの推進を行い、それらの資源を使用して円滑な建設活動を進めるためには、資源、土木、建築など異分野間の情報交換や連携・協力が今後ますます必要になる。

本委員会は、各分野の研究者、技術者が自由に参加して、それらの活動を闊達に行える場として用意されているので、すでに入会されている各位には、さらに幅広い分野からの参加の呼びかけをお願いしたい。未入会の各位には、この機会に是非入会されて、激動の２１世紀をしっかり進んでゆくための技術的バックボーンを見出されることを期待する。また、本委員会が取り組むべき研究課題の提案や論文報告集「建設用原材料」への投稿など、関係各位の一層のご支援・ご協力をお願いする次第である。

２００２年１１月